埼玉県川口市　鋳物工場の分布状況にみる歴史的変遷

日大生産工（学部）○岩川　由紀
日大生産工　　藤谷　陽悦

１ まえがき

埼玉県川口市は、古くから地場産業として鋳物工業が発達し、「鋳物の街」・「キューポラのある街」として全国的に知られている。川口鋳物の起源は諸説あるが、中世末期には鋳物の製造がなされていた。江戸・東京といった大消費地に隣接し、荒川・芝川から産出する良質な砂粘土が鋳型の製造に有利であること、運搬・労働力の面でも恵まれており、川口に鋳物業が発展・定着したと言われている。1880年以降、主な製品は小型神仏具・鍋・釜・鉄瓶といった生活用品が主流であったが、大正から昭和にかけて技術革新の成功により、川口の鋳物は諸産業機械の部品・パーツに関わる製品の大量鋳造へと転換していった。

このように鋳物業は経済・社会・文化的にも町の生活を支え、川口の地域的・歴史的な特色を支えている。近年は産業の空洞化や賃金の安価な諸外国との競争など､様々な問題に直面し、長引く不景気から生産を中止し、マンションや駐車場に変わる工場が増えている。

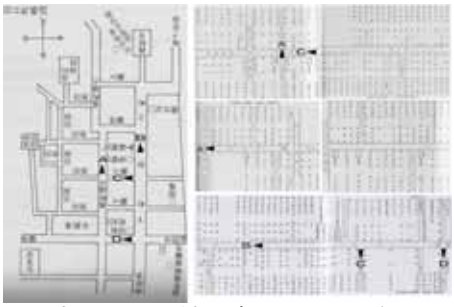
本稿は、川口市の地場産業である鋳物工場の分布の変遷を考察することで、産業の衰退及び人々の生活の変化・問題点を明らかにしていく事を目的としている。

２ 調査方法

まず、川口市の鋳物工場の分布を明らかにする。それに関わる資料として次のものがあげられる。

① 明治 35 年　川口町略図（地図１）
② 昭和５年　川口市内地図（地図 2）
③ 大正 10～昭和７年頃の金山町の町並み（地図 3）
④ 平成１7 年　金山町住宅地図（地図 4）
⑤川口市近代建築物調査表

①からは、当時川口町にあった商店名・世帯主の名前が読み取ることができる。この中から鋳物製造業に関係するものは約24軒、鋳物師は１軒、鍛冶屋２軒、鋳物商は２軒ある。その他におおくの商店が立ち並んでおり、鋳物工場を中心として町が賑わっている様子が読み取れる。



地図１：明治35年　川口町略図

②では、川口市全体の街区とおおまかにどのような建物が存在していたかが読み取れる。現在の川口市の「主要地方道川口停車場線」に当たる道路沿線には商店が軒を連ねて建ち並んでいる。この道路沿いが川口の表通りであり、多くの人で賑わっていたことが分かる。逆に裏側に当たる荒川・芝川沿いの金山町・本町には多くの鋳物工場が描かれており、この地区では河川を利用した鋳物製造業者が軒を連ねていたことが読み取れる。

地図２：昭和５年　川口市内地図

The historical change on the distributing of the casting factory in the Kawaguchi city

Yuki IWAKAWA ,Youetsu FUJIYA

③の地図では、金山町の街区と敷地の様子が示されており、更には敷地の中にどのような建物があったかが細かく読み取れる。この地図では、鋳物製造業者の名前が最も多く記されている。このことから、川口の鋳物業は大正10年～昭和初期にかけて、最盛期を迎えていた様子を見ることができる。

④は現在の金山町の地図である。③の地図と④の地図とを比較していくことで、金山町の鋳物工場が最も栄えていた時代からどのように変化していったかを知ることが出来ると考える。大正10～昭和７年頃の金山町の町並み（地図３）と平成１7年金山町住宅地図（地図４）を比較し、川口鋳物に関係する文献と現地調査、更に日本大学生産工学部建築工学科藤谷研究室で平成13年から関わっている「川口市近代建築物調査」に基づく⑤分布リスト、それらの調査に元づいた鋳物工場の分布状況と分布の変遷を読み取り、産業の衰退及び人々の生活の変化・問題点を考察していく。

３　金山町の歴史と川口鋳物

金山町の歴史は、川口鋳物に始まるといっても過言ではない。川口の鋳物業は鋳物に用いる砂の採取が容易な荒川べりに広がり、善光寺門前町一帯を中心に発展した。これは現在の金山町周辺に当たる。

鋳物作りは古くは鋳物師一人が製品を作っていたが、近世に入ると分業化が進み、鋳物に携わる様々な職業が出てきた。主な職業に次のようなものがあった。

〈鋳物製造に直接関わる職人〉

鋳物師…直接製品を作っていく職人。分業化により鋳物師が行う作業は、『型込め』を中心に溶解した鉄を鋳型に流し込む『湯入れ』と『型壊し』。

〈請負で工場に所属する職人〉

焚屋…鉄を溶かす甑やキューポラの管理をし、その溶解作業を行う職人。現在の「溶解士」にあたる。

割屋…廃品となった鋳物製品を再利用する為に、それらを炉に入れる適当な大きさに切り割りをしていく職人。昭和初期から始まった仕事で最盛期は昭和35年。昭和40年代から減少し始める。

鍛冶屋…鋳物の製作工程で生じた「バリ」と呼ばれる突起物を取り除き鋳肌をきれいに仕上げる職人。

〈工場とは独立している職人〉

木型屋…鋳型作りの元となる、鋳物の原型を木で作る職人。

地図３は大正後期から昭和初期頃の金山町の地図であり、この時代には、まだ『割屋』という職人は登場していないが焚屋・鍛冶屋・木型屋といった職種があり、分業化が成立していることがいえる。また鋳物工場と町全体が密接な関係にあることが読み取れる。

地図３：大正10～昭和7年頃の金山町

表1：地図3における主な建築軒数

建物種類		軒数
工場	鋳物工場	61
	機械工場	7
	鉄鋼所	8
鋳物関係	木型	15
	焚屋	3
	鍛冶屋	1
住宅（商店を兼ねるもの）		84（51）
長屋（商店を兼ねるもの）		171（91）

（地図3より作成）

４　地図でみる大正10～昭和7年頃の金山町

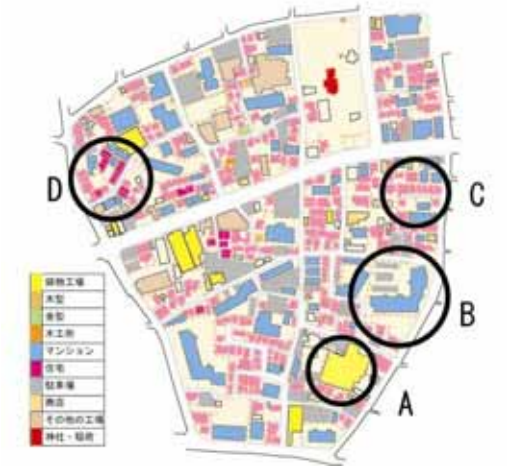
地図３より、当時の鋳物工場の数は61軒、また鋳物業に関係するものでは木型屋15軒、焚き屋３軒、鍛冶屋１軒がある。また川口には「買湯」といった特有の制度があった。買湯とは「湯」と呼ばれる溶解した金属を買って、自分一人で鋳物を商う鋳物製造業である。独立しようとしている職人は、工場を構えるまで独自営業で得意先を築き、独立した工場・溶解施設を持たない代わりに、工場の一部を間借りしたり、自宅の長屋の軒先で型を込め、必要な量の湯を買って鋳造を行っていた。それから考えると、鋳物製造業者は工場を構える６１軒のほかに、更に多くあったと考えられる。地図には鋳物工場の他に、機械工場７軒・鉄工場８軒が描かれている。機械業は第二次世界大戦後の重工業の発展により、機械部品・パーツに関わる製品による製造・販売・大量鋳造に関わる製造の職種として増えてきた。当時から川口では機械鋳物業の割合が多くなってきていたことがわかる。とは言え、鍋・釜・鉄瓶は重要な生産品であり、地図から鋳物工場が６１軒あることが示すように、このような日用品をつくる鋳物屋はまだまだ数多くあった。

川口町の鎮守である川口神社は、明治42年に川口鋳物師の鎮守であった金山権現を合祀して、現在のものになった。地図には川口神社のほかに稲荷が30箇所も祀られている。鋳物工場にとって大切な「火の神」として、稲荷を敷地の一隅に祀る工場が多かったためである。

また昭和７年の川口では住宅の７割以上が借家であり、多くは長屋形式でたいていは２・３軒の棟割り長屋、中には８軒長屋もあった。住人の多くが鋳物業に関わりをもつ人々で、主道に面した長屋では商売をしている商人が店を構え、表店の裏通りに裏長屋があって、そこで湯買の職人が鋳物の製造に当たっていた。

金山町は鋳物の町であると同時に、それを支える人々の生活の場であり、様々な商売を行う店があった。米屋６軒・八百屋７軒・魚屋７軒・酒屋10軒と生活に結びついた店が多く、職人を相手にしたカフェーや喫茶店といった飲食店は19軒、子供や徒弟を相手にした駄菓子屋は16軒、こざっぱりとした刈り上げ頭を身だしなみとしている職人の町らしく、理髪店は６軒・銭湯は２軒あった。銭湯は川口の大切な公共施設として鋳物職人たちの体から落ちる砂で施設が汚れるという理由から、公衆浴場料金が特別に大人五銭のところを六銭に割り増しされていた。このほかに芸妓の置屋は３軒、芸妓の取次ぎを行う検番も多くあった。

このように、金山町は工場を中心とした町であるが、「宵越しの金は持たない」といった鋳物職人の気風から、娯楽施設・数多くの商店や飲食店が軒を連ねて日常生活が営まれていたことがわかり、鋳物工場と界隈空間が町全体で密接な関係にあることが、地図３より考察することができる。



地図４：平成17年の金山町

５　地図で見る現在の金山町（昔の町との比較）

次に現在までの金山町の変遷の様子を、地図に形成された街区・店舗から見ていきたい。地図３と地図４を比較すると、金山町の街区は大正末期から現在まであまり変化せず、川口神社も当初の規模のままで残っている。しかし建物の内容を比べてみると、地図３で大部分を占めていた鋳物工場の数はわずか７軒（A）となり、現在の金山町ではマンション・住宅・駐車場といった施設が大部分を占めている。

工場の跡地の利用方法は２パターンある。一つは工場のあった敷地にそのままマンションや駐車場を造り、工場の親方がオーナーとなっているケース（B）。もう一つは敷地を細分化して多くの住宅が軒を連ねているケースである（C）。工場の経営者は、長引く不景気や賃金の安い諸外国との競争等により、経営状態が厳しくなり、より実入りの多いマンション経営に当たるようになった。

図１：変化した金山町の町並み

表2：地図4における主な建築軒数

建築種別		軒数	割合(%)
工場	鋳物工場	7	1.83%
	その他	18	4.69%
鋳物関係（住宅内）	木型	2	
	金型	1	
住宅（長屋）		237（14）	61.88%(3.65%)
マンション・アパート		66	17.23%
商店		15	3.91%
その他		37	9.66%
合計		383	100.0

（地図4より作成）

表3は、2004年と2006年の金山町内における工場とマンションの数を比較したものである。二年間の間に工場は6軒減り、マンションが10軒増えている。また、金山町に住む人の話では「鋳物工場の最盛期には、川口には大小含め800軒近くの工場があったが、現在は40軒程しかない。５年後には全ての工場が海外に移り、川口からなくなってしまう。」との噂もある。こうした話や表３からもわかるように、川口の町並みが変化するスピードは目まぐるしい。わずかに残っている鋳物工場や木型屋も、町を調査してみると実際には営業はしていないところが多い。

鋳物工場の減少に伴い、町並みも大きく変化している。「火の神」として工場の敷地の一隅に祀られていた稲荷は、マンションの乱立によって「火の神」の役割が薄れていき、川口神社とその周辺にわずかにその痕跡を残すのみである。商店の数も減少し、多くは美容院・クリーニング屋に変わり、わずかに煎餅屋や割り長屋（D）が当時の面影を残している。煎餅は鋳物職人のおやつとして食され、鋳物の町には欠かせない物のひとつであった。

このように川口では「鋳物の町」から「ベットタウン」としての町並みが色濃くなりつつある。しかし新しい鋳物工場のあり方として、一部ではマンションの地下に工場を構え、営業しているところもあるようだ。

表3：2004～2006の主な建築軒数の変化

	～2004	2006
工場	30	26
マンション	56	66

（川口市近代建築物調査表　より作成）

表4：川口市の工場種類別床面積の割合

床面積(m)	全工業(%)	鋳物(%)	全機械(%)	木型(%)
1～100	49.1	14.7	52.5	81.0
～500	33.5	40.1	34.6	15.6
～1000	9.1	24.5	6.9	2.6
～2000	4.6	14.7	3.5	0.4
2000以上	3.7	6.0	2.5	0.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

（鋳物の町　川口より抜粋）

６　工場の規模と形態の変化

川口の鋳物工場では、親方の家と工場は同じ敷地内にあるのが普通であり、親方の私生活と鋳物の仕事は切り離すことができないものであった（＊１）。このように工場は同じ敷地内に多くの施設を持つものが多く、表４の川口市における工場種類別の床面積の割合が示すように、鋳物工場では鍋・釜・鉄瓶といった日用品を大量に作っており、また鉄を溶かす『吹き』と呼ばれる危険な作業が行われるため、機械工場や木型の工場より広い場所を必要としていることがわかる。機械工場では機械部品といった細かい製品が作られ、また作業が機械化によって合理化されているために、鋳物工場ほど広い場所は必要としない工場が多かった。最後に、木型工場は住宅内に工場を構えているところが一般的であったため、工場は100㎡以下の規模で成立していたことがわかる。

しかし、手工業から機械化へと移り変わることによって、工場の規模や併設する施設の形態も変化している。現在の川口の産業を知るうえで、こうした工場の変化を把握することは重要であるが、現存する工場の多くは営業中であり、これ以上の詳細な調査は困難である。

７　まとめ

川口市における鋳物の発祥の地とされる金山町は現在工場の数が減り、鋳物に関連して発達した町並みも減少し、工場の跡地にはマンション・住宅・駐車場が乱立している。鋳物工場は川口の産業を支えてきたものとして、歴史的・地域的な価値があり、こうした記憶を継承していく必要がある。しかし現在その対策が追いつかないまま、工場は失われていっている。

鋳物工場のある町並みを残すことは川口の歴史を継承していくことに繋がる。今後金山町以外の地域も含め、更に鋳物工場の実態調査を進め、どのようにして工場を保存していくことができるのか、その方法を早急に検討していく必要があると考える。

８　謝辞

最後になりましたが、本稿においてご協力をいただいた川口市役所社会教育課文化財担当の宇田哲夫様、川口市母子福祉センターの内山紀子様、川口市立中央図書館の皆様、川口市金山町の皆様にこの場を借りて深く御礼を申し上げます。

９　参考文献

1)石館達二　他,「建築学体系29工場」,建築学体系編集委員会編, 彰国社,(1969)
2)三田村佳子,「川口鋳物の技術と伝承」,聖学院大学出版会,(1998)（＊１）
3)宇田哲夫,「川口鋳物工業と文化財」,日本民俗学,第229号,p.158-176
4)竹内淳彦,「鋳物の町　川口」,古今書院
5)川口市教育委員会,「川口市民俗調査報告書第三集 鋳物の町 金山町の民俗Ⅰ」,川口 川口市教育委員会
6)「ゼンリン住宅地図 川口市西部 2005」,ゼンリン
7)「川口市近代建築物調査表」,日本大学生産工学部建築工学科藤谷研究室